

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)			
学校運営方針 教育基本法並びに学校教育法の理念に則り、生徒一人ひとりを大切にするとともに、学校集団としての連帯感を高め、社会性を育む教育をとおして心豊かな人間形成を目指し、組織的・計画的な教育活動を展開する。 「鍛えて、ほめて、生徒の可能性を伸ばし、明るく元氣な学校、専門学科としてのスペシャリストの育成」実現に向け、『「目指す学びがそこにある！」～チーム筑水～』として、①「あなたの志(おもい)に応えます」、②「あなたを鍛えて伸ばします」、③「あなたを立派に育てます」の3つの取組を実践する。					
昨年度の成果と課題 ○成果 1 生徒の実態に合わせた授業内容の工夫と改善が進み、学習意欲と授業規律の向上が図られた。 2 挨拶、時間厳守など基本的な生活習慣が確立され、マナーアップが図られた。 3 希望進路の多様化に対応できる進路指導を確立し、卒業生全員の進路決定を目指す基盤づくりができた。 4 ホームページ・学校案内の全面改定、全教職員による広報活動により、入学志願者倍率が上がり入学志願者定員割れが解消できた。 ○課題 1 更なる広報活動の見直しにより入学志願倍率の向上を図る。 2 中途退学者ゼロに向けた取組を強化する。 3 生徒が変わった様々な課題に対応できるように、教育相談体制を充実する。 4 部活動の加入率を上げ、学校活性化を図る。	年度重点目標 ○学習環境を整え、基礎学力の定着をはかり、社会的自立の基盤となる確かな学力の育成と実践力の向上を目指す。 (あなたの志に応えます) ○農業・福祉・調理の専門分野におけるスペシャリストを育成するため、キャリア教育の充実を図り、希望進路の100%実現を目指す。 (あなたを鍛えて伸ばします) ○基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図るとともに、自律心と思いやりのある心豊かな人間形成を目指す。 (あなたを立派に育てます)	具体的目標 ・基礎学力の定着と学習意欲及び実践力の向上に向け、「主体的・対話的で深い学び」を導入するなど、授業の工夫改善及びきめ細かい指導を行う。 ・1時間の授業を大切に生徒の理解度を確認し、学習目標の明確化により、能力に応じた規律ある授業展開と、確かな学力の育成を図る。 ・各学科等の特色を生かした資格取得やコンテスト・各種競技等の指導を充実し、キャリアアップを図る。 ・美化活動を徹底し、授業に取り組み学習環境と安全・安心な学校環境を整える。 ・3年間の継続的・組織的な指導体制のもと、効果的な現場実習や外部人材を活用して生徒の進路意識の高揚を図る。 ・各学科において、将来のスペシャリストにふさわしい専門知識と技能を身につけさせるとともに、勤労観と職業観を育成する。 ・生徒の進路決定100%の実現に向け、生徒の興味・関心及び適正を重視した進路指導と、全職員による企業及び大学等への訪問を行う。 ・挨拶、時間厳守、礼儀作法、掃除、頭髪・服装等のマナーアップの指導を全職員で徹底する。 ・部活動を活性化し、生徒の能力に応じた技能や記録の向上を図り、豊かな学校生活の場とする。 ・全教科・領域、学校行事、ボランティア活動において、自尊感情の育成、自律心と思いやりのある心の育成を図りいじめの撲滅と人権意識の高揚に努める。 ・担任、学年、学科相互の情報共有を図り、スクールカウンセラーや保護者等との連携がとれた教育相談体制のもと、中途退学者ゼロを目指す。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
教務	社会的自立の基盤となる確かな学力の育成と実践力の向上を目指す	「主体的・対話的で深い学び」の実践を深める 習熟度別・少人数授業の充実を図る	B B	B	・習熟度授業等の充実により学力の向上、主体的・対話的で深い学びを実践している。今後さらに推進する必要がある。・観点別評価の見直し等教務内規の見直しは一部改正したが、さらに検討の必要がある。電子黒板等の設備の有効活用は、今後も推進する必要がある。・生徒の情報共有は教科担任会議を行っている。遅刻・欠席の指導、授業規律の確立・学習環境の整備は一定の成果はあったと思うが、不十分であると考えられるので、引き続き取り組む必要がある。
	授業改善のために、授業内容等の見直しを図る	大学進学に対応できる学力の育成に向けた体制を作る 評価の改善、観点別評価の導入を行う 教務内規の見直しを図る	B B B		
	全教科・科目をとおして授業規律を守り、授業に集中できる環境作りを行う	情報処理室・視聴覚教室等・電子黒板等、教育設備の整備と有効活用を図る 教科担当者等において、生徒の情報等を共有し授業改善につなげる 生徒の欠席・遅刻の統計を取り、欠席遅刻が多い生徒の指導を行う 授業規律の確立と学習環境の整備を図る	B A B B		
企画庶務	各部、各課との連絡調整を行い、円滑な公務運営に努める	各行事の円滑かつ組織的な連絡調整を行う。 公簿・資料作成を円滑に行う。 学校防災の実施	A A A	A	・PTA活動の一環である7月に実施している「地区懇談会」は、現在各地区とも保護者の出席率が非常に低い。ため目的が達成されていないのではないかとと思われる。これを別、ものもしくは他の行事を統合するなどの検討・変更が必要と思われる。
	PTA、同窓会と連携し、地域に根拠した教育活動を推進する	同窓会事務局との連携を行う。 PTA活動の推進を行う。	A A		
	広報活動の推進	筑水通信の充実と円滑化を図る。 各種行事の記録を行う。	A A		
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と維持	学年・学科と連携し、服装指導の徹底 全校集会・終礼等の活用 問題行動への迅速対応	A A A	A	・服装に関しては、全校終礼などは減ってきているが、制服のボタンや校舎内での防寒着の着用があった。全教員で指導していきたい。また、問題行動は減ってきているものの、携帯電話の不正使用が増えている。・部活動の加入率が減ってきていて、アルバイトの数がかなり増加している。アルバイトに関しては、検討が必要。・教育相談に関して、いじめの早期発見や対応に教職員一同、情報共有を密にして、また、関係機関との連携を密に行っている。早期発見・早期対応に心がける。
	生徒会活動の活性化	部活動紹介などにより新入生の部活動加入率を高める 各種委員会活動の定例化を推進し自主的活動を促す	A A		
	教育相談の充実	各学年及び関係部署との情報共有と協力体制の確立 個性を重視した細かい対応と関係機関との連携の推進 いじめ問題への早期発見と対応に努める	A A A		
	安全教育の徹底	自転車・バイク実技講習の充実 SDE講習会の実施 登校指導の充実	A A A		
保健	生徒の健康安全に対する意識の向上	保健委員会による健康安全に関する啓発活動と保健だよりの充実を図る。 健康診断や学校行事における事前健康調査を実施し、個別指導につなげる。 生徒の衛生面、安全面の管理を徹底し、学習環境を整える。	A A B	A	・特別支援の体制を整える支援が必要な生徒への聞き取り調査を実施し情報関係職員と共有し、サポートシート等へのピックアップの仕方や対応の仕方、サポートシート等の活用について、研修の設定、支援計画の作成など、マニュアルを作成する。 ・美化委員会活動の活性化 美化委員会が啓発ポスターや新聞などを作成し、各クラスやトイレなどに掲示する。また、ゴミに関する研究を行い、文化祭時等に発表する。
	学習環境の整備・美しい学校づくり	美化コンクールを継続的に実施し、校内の美化意識を高める。 美化委員会による校内美化活動やゴミ減量化に向けての啓発活動を行う。 ゴミ減量化に向けて各教室やトイレ等に啓発ポスターや新聞などを掲示する。また、ゴミに関する研究を行い、文化祭等で発表できるよう準備する。	A B B		
	教育相談・特別支援教育の体制作り	面談週間や生活アンケートにより、いじめ等の早期発見・早期対応に努める。また、スクールカウンセラー等を最大限に活用し、相談できる体制を確立する。 サポートシートを活用するなど生徒理解に努めると共に、関係職員と情報を共有し、支援の検討ができるようにす 好まざる生徒に関わっている職員への勉強会等を行い、支援についての共通理解を図る。	A B C		

平成30年度 学校自己評価表 (計画段階 ・ 実施段階)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
進路指導	「生徒に考えさせる進路指導」をテーマとし、各学年の進路学習の流れの再構築を行う	各学年における進路学習HR内容の再構築を行う。	B	本年度就職希望者の数が進学希望者の数を越えた。好景気の影響もあり、昨年度も同様な傾向が考えられる。企業からの来校者も昨年より多く、進路指導課だけで企業開拓するのが難しい状況である。次年度は学科の協力のもと企業開拓を行う。基礎力テストを行って3年が経つが、活用が上手くできていない。次年度は、成績上位者等のリストを全職員に示し、進路指導に役立てることができるよう情報を発信したい。
		進路行事を系統的に繋がるように実施する。	B	
		進路学習HRに「進路の手引」を活用する。	C	
		受験カレンダーを活用し、提出書類等の期日を守らせる。	B	
		挨拶言葉遣いなどコミュニケーションをとる上で、当たり前のことがきちんとできるようにする。	B	
		就職希望生徒全員との面談を実施して、丁寧な指導を行う。	A	
広報	本校職員による中学校訪問	できる限り早期に中学校を訪問し、本校の体験入学や相談会などの行事の周知を図る。	A	今年度も各中学校の先生方や関係職員の方々のご協力をいただき、何とかスムーズに広報課行事を行うことができたのではないかと考えている。特に今年度2回の実施を行った体験入学は、前年度実績を大きく上回る来場者をお迎えすることができ、大変やり難い実施となった。次年度も引き続き、本校の様々な教育活動を多くの保護者・生徒の皆さんへ広報していければ幸いである。ホームページについても従来のものより迅速にページの更新などがしやすくなり、アクセス数も徐々に増えているよう
		学校案内パンフレットや広報用チラシなどを対象の全生徒に配る。	A	
		中学校の先生へ本校の教育内容を十分理解していただく。	B	
		体験入学では積極的に各学科における体験型授業を取り入れ、生徒・保護者の本校理解を深める。	A	
		進路相談事業において生徒・保護者に良い印象が残る取り組み内容を考える。	A	
		親子相談会において生徒・保護者の疑問を解消し、本校理解が深まる様な取り組みとなるよう各学科の協力を仰ぐ。	A	
図書研修	職員の資質向上を図る職員研修会の実施	学校ホームページを更に充実させ、利用者が見たくなるようなページ作りを心がける。	B	・「わかる授業」の構築に努める。「生徒がわかる」という生徒主体の授業の組み立てに視点を置いてアンケートを活用していく事を全授業者の共通認識とする。けじめある授業の為にHR・教科担当の連携・協力が必要である。
		進路学習センターの活用を推進する。	B	
		授業アンケートを実施し結果を授業改善に生かし、授業の充実・活性化を図る。	B	
		積極的な授業参観(含他教科)を促し、授業改善のヒント・助言の充実を図る。	B	
		校内内外での研修の告知と推進を図る。	A	
		生徒の実態に即し、時期に応じた効果ある研修を企画・立案・実施する。	B	
第1学年	基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚	学校案内パンフレットや広報用チラシなどを対象の全生徒に配る。	A	・新入生に対して、オリエンテーションの時間の確保が必要である。
		中学校の先生へ本校の教育内容を十分理解していただく。	B	
		体験入学では積極的に各学科における体験型授業を取り入れ、生徒・保護者の本校理解を深める。	A	
		進路相談事業において生徒・保護者に良い印象が残る取り組み内容を考える。	A	
		親子相談会において生徒・保護者の疑問を解消し、本校理解が深まる様な取り組みとなるよう各学科の協力を仰ぐ。	A	
		学校ホームページを更に充実させ、利用者が見たくなるようなページ作りを心がける。	B	
第2学年	基本的な生活習慣の確立	年度、サイトの更新が行われていない各部署・各科目に日頃の教育活動を外部に発信していく。	A	基礎学力の向上を目指し、進学や就職試験に向けた学習環境整備に取り組む。
		上記以外の学校PR活動の推進	B	
		授業アンケートを実施し結果を授業改善に生かし、授業の充実・活性化を図る。	B	
		積極的な授業参観(含他教科)を促し、授業改善のヒント・助言の充実を図る。	B	
		校内内外での研修の告知と推進を図る。	A	
		生徒の実態に即し、時期に応じた効果ある研修を企画・立案・実施する。	B	
第3学年	進路決定100%の実現	図書利用の向上を図る職員研修会の実施	A	基礎学力の向上に活用する。また基礎学力がいかに重要であるのかを実感させるような講話やデータ等を提示する。
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
リーダーとしての資質の向上	基本的な生活習慣の確立	図書利用の向上を図る職員研修会の実施	A	基本的な生活習慣の確立を図るために、保護者との連携・協力体制を構築し、遅刻・欠席に対する意識を高めさせる。また全てにおいて時間や期限を守らせる。
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	
		図書利用の向上を図る職員研修会の実施	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
農務	授業内容の充実及び農業クラブ活動の活性化	知識・技術の向上を図るため、農業関連機関と連携し教科指導を推進する。 資格所得の合格率をあげるため、授業内容の充実を図り進路実現に繋げる。 農業クラブ活動の各種競技上位入賞を目指し、教科指導を徹底する。	C A B B	B	農業振興に関する実態把握を行い、職員の実務活動における知識・技術の向上に取り組み、先進農家や関係機関との連携を図る。農業クラブ活動の活性化。 農業関係職員におけるGAPやHACCPなど農産物の安全性に関する認証にむけた研修を実施し、農業担当職員の知識・技術の習得とともに本校生産物の品質向上に取り組み。
	各学科の連携及び販売所運営の推進	情報公開、資料回覧を徹底し、共有化を図る。 販売所の運営において地域への情報発信、生徒による販売実習実践の場を推進する。	A B		
	農業関連産業並びに関連機関との連携	職員研修の充実(農業関連研修の積極的な参加、報告会による職員への還元) 地域企業との連携(JA・改良普及センター等との情報交換)	B C		
	規律ある授業を展開し、学力の向上を図る	毎時間ノートを提出させることで授業に集中させる。 実験実習ノートの書き方の指導、文章の添削を行う。 生徒の学力に応じた教材を選ぶ。 プロジェクト学習の定着と社会人特別講師招聘事業の実施。	A A A B		
生物工学科	専門知識と技能を身に付けさせるとともに、勤労観、職業観を育成する	実験実習で準備から片付までができるよう指導する。 現場実習の実施。	B A	B	生徒の実態にあった教育環境を整える。また、観点別評価を積極的に取り組む。社会人としての自覚を持てるように進路指導、挨拶指導、授業規律を根気強く続ける。さらに、学科の特色を生かした資格取得や各種競技等の指導を充実する。
	挨拶、時間厳守、礼儀作法、掃除、頭髮・服装等の指導を全員で取り組む	始業での挨拶、服装指導、結髪の実施。 実験実習室、更衣室の整理整頓。 適切な言葉使いの指導。そのつど注意。	B C B		
	入学定員を確保するためのPR活動を充実させる	学校HP・食品流通科更新情報・年間教諭10回、実習助手5回行う。 学習活動を販売所で積極的に発信。学校案内、パネル等を常設する。 新商品を含め職員が2年間で1商品販売。マスコを活用し広報活動を行う。 各自が年1回マスコを活用した広報活動を行う。 広報用の学科独自の中学校訪問資料の作成。	B C B A A		
	「学校のパン屋さん」を立ち上げ学科の柱となる活動に成長させる	週1回学校販売所で販売する。 学科の全職員が係わり取り組みとして立ち上げる。 本学科生徒が学習内容を自慢できる取り組みに育てる。	A A A		
食品流通科	進路実現に向けた取り組みの充実及び資格取得の推進	定期考査1週間前の欠点保持者の指導を継続して行う。 朝5分学習の選考テストを継続し、遅刻欠席の増加を防止する。 学科職員全員が行う3年生全員への面接指導を継続する。 受験する資格の合格者目標値を学科会議で検討・設定し実現する。	A A A A	A	今年度は3年生の時間割の関係で、計量から第1次発酵までは職員が担当した。製造工程全般に生徒が係わるような時間割の編成を要望する。 小、中学生・保護者への出前授業・体験学習などを通して、開かれた学校づくりの推進を図る。学科の学習活動をホームページや放送通信、販売所、道の駅で積極的に発信。豊かな地域農業素材を活用した新商品開発の取り組み。 生徒指導については、指導の基準を明確化し、職員の共通認識・理解のもと、協力して学科一丸となって行う。集団の一員として規律、責任ある行動を実践させる。
	学校内でのマナー教育の充実	職員室・準備室等の入室マナーの指導を全職員で行う。 更衣室の整理・整頓 教室の学習環境を担任と連携し充実させる。	A C B		
	学習意欲の向上に努め、学力の定着を図る。	座学・実習を問わず記録時間を設定し、書く習慣を身に付けさせる。 進路実現に向けて早期の進路指導を推進する。 教員の資質と技術の向上に努める。	C A B		
	道徳モラルを育成し、基本的生活習慣の確立を図る。	挨拶、礼儀作法等、マナーアップ指導に努める。 施設の管理、使用等マナー指導を行う。 授業、実習等、安全面に常に注意を払う。	C B B A		
環境緑地科	地域・企業との連携を図る。	校外実習(独居高齢者宅庭園管理、植木管理等)でのボランティア精神の高揚に努める。 現場実習受け入れ先企業との連携強化を図る。	B A	A	今後も生徒の実態に合わせた授業内容の工夫と改善に努め、学習意欲の向上を図ると共に、日頃の生活や、校外実習等を通して規範意識の向上に勤める。 また、常日頃からの技術継承を心がけ、教員の資質向上と技術の継承を図る。
	基礎学力の向上と専門的知識・技術の習得のための専門的授業実践	協同学習を積極的に取り入れた専門教科の主体的・対話的で深い学び ICT(電子黒板・パワーポイントなど)を活用した授業の工夫 ワークシートの記入指導及び提出の徹底 介護技術コンテストの取り組みを通じた専門教科の指導	A B C A		
	基本的生活習慣の確立とともに自律心と思いやりのある生徒の育成	時間厳守、挨拶、言葉遣い、礼儀作法など基本的生活習慣の確立 施設実習や地域高齢者交流・特別支援学校との交流を通じた情報豊かな生徒の育成を図る教育実践 達成感のある学科行事等の取り組みを通じた生徒の育成	A A A C		
	希望進路100%実現を目指した具体的な取り組み	希望進路実現に向けた職場・進学生との開拓と進路指導の効果的取り組み 面接指導、小論文・作文指導等、進路指導の効果的取り組み 進路指導部、他部署、担任、保護者との連携	A A A		
社会福祉科	介護福祉士資格全員取得に向け生徒の実態に合わせた効果的指導	介護福祉士国家試験の校内模擬試験、公開模擬試験の実施及び結果分析と活用 朝課外、放課後課外、夏期、冬期休業中課外の実施と指導の充実 成績不振者への個別指導(きめ細かく、丁寧な指導)の徹底	B B B	B	今後も授業の開始時などに挨拶や服装等に関して指導を行う。特に言葉遣いに関しては、教員自身が言葉遣い、態度に留意し、TPOに応じた言動ができるよう指導する。 授業に関しては、生徒が主体的に学ぶために、主体的・対話的で深い学び、チームティーチング、ITの活用を通じた指導の工夫を継続的に行う。 施設実習指導では、生徒の実態に応じた実習施設開拓を行う。また、実習事前指導を計画的に行い、生徒の能力に応じて、個別指導を丁寧に行う。 福祉関連資格や検定の積極的な資格取得を促し、介護福祉士としての常識や倫理観を身に付けさせる。
	希望進路100%実現を目指した具体的な取り組み	希望進路実現に向けた職場・進学生との開拓と進路指導の効果的取り組み 面接指導、小論文・作文指導等、進路指導の効果的取り組み 進路指導部、他部署、担任、保護者との連携	A A A		
	介護福祉士資格全員取得に向け生徒の実態に合わせた効果的指導	介護福祉士国家試験の校内模擬試験、公開模擬試験の実施及び結果分析と活用 朝課外、放課後課外、夏期、冬期休業中課外の実施と指導の充実 成績不振者への個別指導(きめ細かく、丁寧な指導)の徹底	B B B		
	生徒一人一人の適性を極め、技術向上のための丁寧な個別指導を実施し、食のプロとしての環境美化・衛生管理に留意させる	4年制大学合格のため専門分野の論文指導を早期から丁寧に行う。各学科の特色に合わせた面接指導、専門知識の伝達等を早期から指導する。就職先開拓については、希望の多い施設・業態の開拓に努力する。1・2年生には個人レベルでの目標を設定させ、自己実現のため取り組む内容を指導し、理解を深めさせる。(資格取得)	A A		
食物調理科	食物調理科の専門性を活かした指導	専門教科指導内容を常に刷新、研修を深め、授業に積極的に活用する。 校外実習を就職に活かすための課題を検討する。ホテル実習先からの評価表を見直し、事前指導の徹底(実習目的再確認・挨拶の励行・服装や髪型等品位の向上)に努める。 朝課外による資格取得全員合格(秘書検定・食生活アドバイザー) 料理コンクール全国レベル入賞をめざして新しい知識と技術の習得、また地域との食イベントの連携	B B A A	B	○評価法について 家庭科の特性である「実習点・実技点」を、新課程に合わせた評価法にて活かす指導方法を検討する。 ○ホテル実習について 実習受け入れ先が減少したため、早期に受け入れの連絡・依頼を行う。 ○広報活動について 細かくHPへのアップを行う。学科の活動やコンクール入賞、楽しい授業内容等逐一閲覧者に知らせ、食物調理科の理解を深めた上で、受検者を増加させる。 ○1年度は早めに受け入れの連絡・依頼を行う。 ○広報活動について、細かなHPへのアップにより、学科の活動やコンクール入賞、楽しい授業内容等、逐一多くの閲覧者に知らせ、食物調理科への理解を深め、受検者を増やす。
	授業内容の再検討と充実	専門教科指導内容を常に刷新、研修を深め、授業に積極的に活用する。 校外実習を就職に活かすための課題を検討する。ホテル実習先からの評価表を見直し、事前指導の徹底(実習目的再確認・挨拶の励行・服装や髪型等品位の向上)に努める。 朝課外による資格取得全員合格(秘書検定・食生活アドバイザー) 料理コンクール全国レベル入賞をめざして新しい知識と技術の習得、また地域との食イベントの連携	B B A A		
	他学科との連携	介護福祉士として必要な家庭生活の基礎基本の知識・技術取得をさせる。 農業科「家庭」で講義や実習を通して、望ましい家庭生活の確立を指導し、生きる力・確かな学力を充実させる。	A A		
	現在求められている調理師としての目標設定・今後の学科長期目標	新教育課程と新調理師養成課程をより理解し、時代や地域の要請に対応する新たな内容を検討する 電子黒板の積極的活用と工夫 情報の共有	B B C		